

[福島県立自然公園松川浦周辺海岸防災林再生事業] クロマツ採種園竣工記念の植樹祭が開催されました。

4月11日、公益財団法人ヤマト福祉財団（本部：東京都中央区、理事長：有富慶二、以下：ヤマト福祉財団）「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金※」の第5次助成先の一つである緑地創造研究会では、かねてより進めていた福島県林業研究センターに整備する抵抗性クロマツ採種園の竣工を記念し、植樹祭を執り行いました。

松川浦県立自然公園は、阿武隈高地から太平洋に注ぐ河口にできた大きな干潟です。古くは万葉集にもうたわれ、大小の島や岩が点在する風光明媚な風景は、日本百景のひとつにも数えられていました。大洲や中州には防風林や防潮林としてクロマツが植栽され、河口に広がるあし原と肥沃な干潟は貴重な植物や野鳥の宝庫でもありました。しかし、東日本大震災の津波により県内有数の景勝地も甚大な被害を受けました。相馬市でも松川浦周辺で流出した海岸防災林は100ha以上になります。津波被害の衰退効果や漂流物の補足効果、海岸防災林が担ってきた飛砂、潮風害の防備なども踏まえると、海岸防災林の再生は必要不可欠です。松川浦周辺の海岸防災林は干潟状の立地にあつたため、根が浅く津波により容易に流出したと考えられます。緑地創造研究会は、これを教訓に盛り土による築堤・植栽にあわせた地域適性苗木の育成と供給を行い、海岸防災林の再生支援を計画しました。

海岸防災林用マツ苗種子の採種園を福島県林業研究センター内に整備し、抵抗性クロマツ苗木樹苗木を2000本植樹。そこから種をとり、マツ類苗木を11万本と95万本分の種子を供給します。この事業には福島県、相馬市をはじめ地元の苗木生産業者やNPO法人、東京農業大学などの協力を得て、種子採種・播種・育成・植替え・出荷まで協働で事業を推進し、植樹後も海岸林の成長を見守り、再生事業を支援していきます。

ヤマト福祉財団では、単なる苗木や種子の供給に留まらず相馬市の生産者たちが中心となり、苗木育成などを行うことで、農業施設の有効活用や継続的な苗木生産という、新しい地元産業を創出し、雇用を促進する地域復興の要になると考え、平成24年3月に「福島県立自然公園松川浦周辺の海岸防災林再生事業」へ1億3000万円の助成を決定しました。

かねてより進められていた福島県林業研究センター内のクロマツ採種園の造成が竣工し、この度の植樹祭の運びとなりました。植樹祭で森林総合研究所の星 比呂志育種部長は『全国からマツノザイセンチュウ（松食い虫）に特に強い樹を47種類選び、ここで育て、その苗木や種子を供給してまいります。これは日本で初めての取り組みとなります。』と話しました。



『なつかしい緑を未来につなげよう』をスローガンに海岸林再生事業が動き出しました



地元のうねめ保育園の園児達と一緒に植樹を行いました



福島県林業研究センターに造成された抵抗性クロマツ採種園



「海外林の再生に役立てたい」と森林総合研究所の星育種部長



ここで2年かけて育てた苗木や種子を供給します